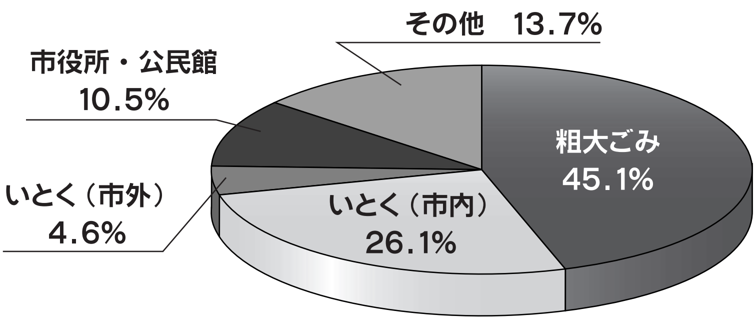
場所別の回収数量割合

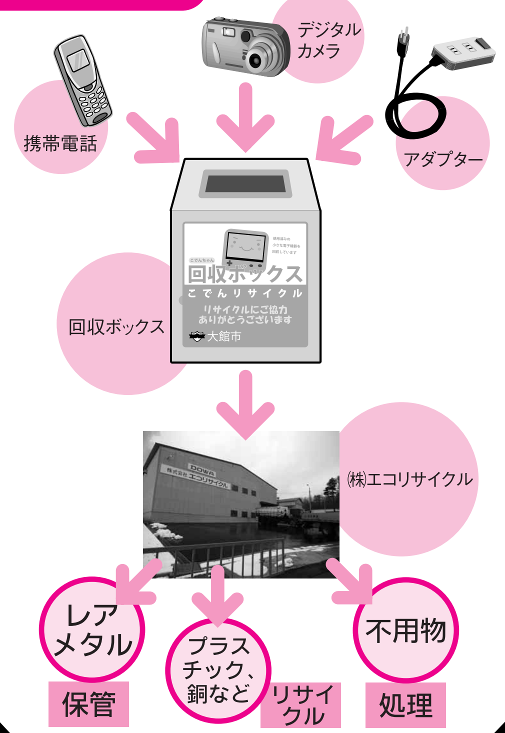
回収データ
平成19年４月～平成20年３月



ボックス回収品目ベスト10

1 アダプター　814個
2 携帯電話　538個
3 リモコン　342個
4 コード　202個
5 アダプターホルダー　191個
6 電話機　169個
7 電卓　163個
8 マウス　158個
9 充電器　148個
10 ゲーム機　141個

概念図



こでんは廃棄物!?

回収されている「こでん」は、レアメタルが含まれている「宝」なのですが、そのほとんどが法律上は一般廃棄物、つまりごみとして処理されています。そのため、簡単に他市町村に出してしまったり、引き受けたりといったことはできません。廃棄物の処理及び清掃に関する法律でごみの扱いは厳格に定められています。今回の「こでん」回収試験では、法律の趣旨に従って届け出や協議などを実施することが求められたのです。

「こでん」回収の成果

「こでん」を回収しレアメタルを蓄積することが試験の目的ですが、実は市にとって喜ばしい成果があります。それが埋立処分する廃棄物の減量です。

今回の回収試験では、ボックスのほかに、粗大ごみ処理場からも機器を回収しています。試験を始まる前までは、これらの機器は埋立ごみや粗大ごみとして回収し、破砕した後、最終処分場で埋め立て処理をしていました。試験を始めてから、市内で回収した機器は、平成20年６月現在、個数で１万４２００個、重量では約27ｔにもなります。

つまり、約27ｔ分のごみが減ったことになり、その結果、最終処分場の延命につながっているのです。

国のモデル事業として実施されることに

このたび、大館市は、国が実施する「平成20年度使用済小型電気電子機器の回収モデル事業」のモデル地域になりました。そのほかにモデル地域となったのは、茨城県日立市、福岡県大牟田市です。国では、今後、モデル地域の状況を踏まえて、「こでん」の回収方法や希少金属の抽出方法などを検討することにしています。

大館市では、これまでの実績を踏まえて、これまで以上に回収ボックスの数を増やすとともに、粗大ごみなどの燃やせないごみからの回収や、イベントでの回収などにも力を入れていきます。

回収にご協力ください

「こでん」を集めるためには、市民の皆さんのご協力が必要です。家で眠っている「こでん」はありませんか？　古くなった携帯電話、動かなくなってしまった子供のおもちゃ、電源アダプターなど、小型で電気や電池で動く物が回収の対象になりますので、ご協力をお願いします。

また、回収ボックスはごみ箱ではありませんので、ごみは絶対に入れないでください。

レアメタル（希少金属）って？

レアメタルとは、もともと地球上に存在する量が少なかったり、量はあっても今の技術では取り出すのが困難だったりする金属のことです。リチウムやチタン、タンタル、インジウム、ゲルマニウムなどの金属30種類と希土類と呼ばれる元素をレアメタルと呼んでいます。

これらは、他の元素と組み合わせることで、製品を小型化したり高性能化したりといった、これまでにない性能や機能を持たせることができます。携帯電話や液晶テレビ、デジタルカメラなど多くの製品に使われています。

このように、今では家電製品や産業機械、ハイテク分野など幅広く利用され「産業のビタミン」とまで呼ばれています。もし、レアメタルを利用しなければ、現在のような小型で多機能の携帯電話や高品質のテレビを作ることができません。自動車産業ではレアメタルの白金やパラジウムが無ければ排ガス規制がクリアできないと言われています。

レアメタルの産出地は、地球上の一部の地域に偏在し、日本は必要な量のほとんどを輸入しています。